

岩倉市の教育等に関する団体ヒアリング調査
<中間報告>

平成 28 年 2 月
岩倉市教育委員会

目 次

1	調査の概要	1
	(1) 調査の目的	1
	(2) 調査の概要	1
	(3) 調査対象団体	1
2	調査結果（シート調査）	2
	(1) 家庭教育・幼児教育について	2
	(2) 地域教育について	5
	(3) 外国籍市民・児童生徒の状況について	6
	(4) 高等学校について	14
	(5) 障がいのある人、児童生徒について	15
	(6) 生涯学習活動について	16
	(7) 文化・芸術活動について	19
	(8) スポーツについて	21
	(9) 歴史・文化について	25
	(10) 図書館について	27
	(11) その他・自由回答について	28
3	面談聞き取り調査	30
	(1) 岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室	30
	(2) いわくらOYGクラブ	33

1 調査の概要

(1) 調査の目的

岩倉市教育振興基本計画を策定するにあたり、アンケート調査で数字として全体の概要をつかむことに加え、各団体が実際の活動を通じて感じている岩倉市の教育・生涯学習等の現状・課題や参考となるべき事例等を把握、整理し、より現状に即した施策検討に活用することを目的としてヒアリング調査を実施した。

(2) 調査の概要

- ①調査対象者 : 岩倉市内で教育・生涯学習等に関わる団体
- ②調査期間 : 平成 28 年 1 月～ 2 月
- ③調査方法 : 郵送配布・郵送回収（一部、メール、ファックスでの回収）
面談による聞き取り調査

(3) 調査対象団体

区分	対象団体等	実施方法
幼児教育 家庭教育 地域教育	認定こども園 岩倉北幼稚園	記入シートによる実施
	認定こども園 ゆうか幼稚園	記入シートによる実施
	岩倉幼稚園	記入シートによる実施
	曾野幼稚園	記入シートによる実施
	いわくらOYGクラブ	記入シートによる実施・面談聞き取り
	子ども会連絡協議会	記入シートによる実施
生涯学習	来未 iwakura	記入シートによる実施・面談聞き取り
文化芸術	岩倉市文化協会	記入シートによる実施
スポーツ	体育協会	記入シートによる実施
	岩倉スポーツクラブ	記入シートによる実施
文化財	岩倉民具研究会	記入シートによる実施
	山車保存会	記入シートによる実施
外国籍市民	岩倉市国際交流協会	記入シートによる実施
	岩倉市日本語適応指導教室	記入シートによる実施・面談聞き取り
その他	岩倉総合高等学校	記入シートによる実施
	社会福祉協議会	記入シートによる実施
	図書館ボランティア	記入シートによる実施

2 調査結果（シート調査）

（1）家庭教育・幼児教育について

①幼児教育全般について

ア) 近年の園児の保護者・家庭教育について、感じることはありますか。

○しつけ、基本的な生活習慣について

意見内容
家庭により差があり一概には言えませんが、本来家庭で行うべきしつけ等が園まかせになりがちな傾向は感じています。
園としては家庭と連携して子どもの成長を共に見ていきたいのですが、トイレトレーニングなど園に任せてしまう方もいるので、家庭でも積極的に協力していただくとより子どもも成長していけるのではないかと思います。
園生活を通して、子どもさんに身に付けてほしいものの中で、「あいさつなどの社会的な生活習慣」があげられることが多い。しかし、さまざまな家庭の中で、あいさつができるチャンスは少なくなっているようである。

イ) 幼稚園・認定こども園における教育上の課題はありますか。

○気になる子の問題について

意見内容
いわゆる気になる子への対応についての職員の指導力の向上

○幼小連携について

意見内容
「小1プロブレム」と呼ばれていることがあるが、園では、しっかりとイスに座ってられる子が、小学校ではフラフラしてしまう姿を見かける。子どもたちが周りの子どもたちの影響を受けやすいというのは事実だと思う。どの園もしっかりと小学校への接続について向き合っていかなければならないと思う。

ウ) 岩倉市の幼児への教育において、今後重視すべきことは何だと思いませんか。

○保護者への啓発について

意見内容
現実的には実施が難しい面もあると思いますが、しつけ等家庭教育の在り方についての保護者への啓発活動

○しつけ、基本的な生活習慣について

意見内容
「あいさつ」「返事」「くつをそろえる」の「しつけ三原則」は引き続き重視すべきことだと思います。また、就寝時間が遅い子やゲームをしたりテレビを長時間見たりする子もいるので、基本的な生活習慣が身につくように、園と家庭と一体となり行っていくことも重要だと思います。

○幼小連携について

意見内容
幼小の連携における保育者と先生の相互の参観や交流活動（指導内容等の相互理解）
本当に素敵な方の多い地域であるので、幼保小の連携には市の共通の用紙を使って打合せをすることができればと思う。特に小学校・保育園においては人事異動があり、新学期に担任にはつき

意見内容
り伝わっていないことも考えられる。忙しい時期ではあるが、4、5月に電話でも打合せができれば良いと思う。

②これからの取組について

ア) 今後、貴団体において子どもへの教育に関連して取り組みたい、あるいは拡充したい活動がありましたら、お書きください。

○幼児教育について

意見内容
これまで実施してきているさまざまな行事や体験活動の工夫・改善による充実
今までの日本の行事も大切にしつつ、クリスマスやハロウィーンなど日本以外の行事も積極的に取り入れ、いろいろな経験を子どもたちにしてもらいたいです。
あいさつなどの社会的な生活習慣について、子どもたちに身に付けてもらいたいと思う。今までもそうであったように、これからも大切にしていきたい。

○家庭教育について

意見内容
これまでも実施してきてはいますが、保育参観等の機会を利用して啓発し、保護者の意識を高めて、互いに協力し合いながら、基本的な生活習慣の確立に向けた取組を一層充実させていきたいと考えています。
家庭でも園でも子どもに正しい生活習慣が身に付けられるように家庭での就寝時間や食生活に協力してもらうなどし、連携していきたいです。
子ども一人ひとりについての方向性について、共感できる打合せをしていきたい。親と定期的に話し合う機会があるので、職員間でしっかりと打ち合わせた上で臨みたい。

○地域教育について

意見内容
まだ具体例はありませんが、地域の方々と園児の交流や絵本の読み聞かせ等地域の方の教育力を生かした活動を模索していきたいと考えています。
地域の行事に参加したり、園の行事に地域の方を招いたりして地域の方と一体となり連携していきたいです。
園の行事に地域の方に参加していただけるようにお声掛けをしている。その回数を増やしていきたい。

○学校教育について

意見内容
幼稚園から小学校へのスムーズな接続に向けての子どもたちについての情報交換の一層の充実と幼稚園でどこまで指導しておくべきかという具体的な内容での教師間の話し合いとその実践
小学校の子も園に来る機会があるので、幼児の子も小学校へ行く機会があると、より小学生になる楽しみが増えるかと思えます。
合同の避難訓練に岩倉東小から声を掛けていただいて参加をしたり、花の苗を植える体験にも参加させていただいている。ただただ感謝しかなく、より一層の連携を進めていきたいと思っている。

イ) 今後の取組に向け、必要な行政支援、市民や地域の協力等があれば、お書きください。

○団体との連携について

意見内容
地域にお話（子ども向けの絵本、紙芝居、人形劇など）をする団体があるのなら、そういった方 に来園していただくと子どもたちも喜ぶと思います。

○行政との連携について

意見内容
行政あつての施設。今後ともよろしくご指導をお願いしたい。

(2) 地域教育について

①岩倉市の子ども・若者への教育について

ア) 活動を通じて、岩倉市がいま最も取り組むべき教育課題は何だと感じますか。

○家庭教育について

意見内容
父親の地域参画の必要性の啓発活動

○地域教育について

意見内容
恒常的な多世代交流（一過性でないもの）

○学校教育について

意見内容
担任教諭の交渉力

イ) 今後、貴団体において子ども・若者への教育に関連して取り組みたい、あるいは拡充したい活動がありましたら、お書きください。

○家庭教育について

意見内容
父親の地域参画の必要性の啓発及びきっかけづくり

○地域教育について

意見内容
キャリア教育での連携

○学校教育について

意見内容
担任教諭の交渉力

ウ) 今後の取組に向け、必要な行政支援、市民や地域の協力等があれば、お書きください。

○大人への地域活動の必要性啓発について

意見内容
大人が自分の家庭（コミュニティ）を守るには、自らその家庭が存在する（所属する）地域（コミュニティ）に関心を持ち、積極的に関わりを持つことが重要であるという気づきと学びの機会・場所の拡充

(3) 外国籍市民・児童生徒の状況について

①外国籍市民への教育・学習について

ア) 近年の外国籍市民の教育の状況について、感じることはありますか。

○保護者の就労状況による家庭への影響について

意見内容
両親共働きで、夜勤も多く、家庭で十分な会話のない家庭が多い。また、子どもの教育に熱心な家庭とそうでない家庭が、国によって傾向が違っているように感じる。
外国人家庭は定住化の傾向にあるが、来日の目的が出稼ぎである場合は両親が共働きで子どもと過ごす時間がない家庭が多い。そのため、家庭学習をサポートできず、子ども自身の学校生活適応能力にほとんどがゆだねられている。
仕事で多忙な保護者の、子どもへの関わり方（宿題への取組、提出物への声かけ、確認など）。
家庭環境は、日本に来日した理由や国籍によってもさまざまであるが、毎日の長時間労働や夜勤で、子どもにかかる時間はかなり少ないように思われる。学校での様子を聞く時間や余裕もなく、子どもたちの様子を知る機会も少ない。勉強は学校でやるもので、家では宿題のサインはするが、やってあるかのチェックはできていないのが現状である。
収入は残業の時間数に左右されるため、仕事に拘束される時間が増え、その分子どもとの時間が減ってしまう傾向がある。

○経済的問題について

意見内容
金銭的な問題や価値観の違いにより、学用品をそろえることのできない外国人の家庭が多い。

○家庭環境について

意見内容
国籍の異なる父母など、まだまだ複雑な家庭環境の生徒がいるので、中学校を卒業した後も、地域で気軽に話ができるような環境がほしい。
母子家庭のフィリピン国籍の子どもが多い。その中でもさまざまな家庭があるが、学校の教育活動に協力的な家庭が多く、宿題の提出率や学校行事への参加率が高く感じられる。
家庭での子どもの様子を見られなかったり、学校行事に参加できなかったりする外国人保護者が多い。
学校行事等へ参加していただける家庭が多いが、中には学校教育への協力が得られない家庭もある。
本校はフィリピン人生徒が一番多く在籍しているが、そのほとんどが母子家庭である。母親の勤務時間が早朝から深夜までとなっており、親子で過ごす時間がほとんどとれていない。したがって、子どもが学校に登校しているか、家庭学習に取り組んでいるか、子どもの精神状態を母親が把握していない状況にある。

○言語の問題について

意見内容
親は日本語が分からないため、子どもの宿題をみることのできない家庭が多い。

○進路への意識について

意見内容
中学校卒業後の進路に対する情報不足、理解不足からくる、進学に対する準備意識の違い。
中学卒業後に高校進学を断念せざるをえない生徒がいることは社会的に考えても問題である。

○お国柄、文化の違いによる教育への意識について

意見内容
国にもよるが、学校教育に対する感覚が日本とは違うと感じる。そのために、天候不良や軽い体調不良等の理由により、安易に学校を欠席するのではないかと思う。小学生の間にそのような習慣がついてしまうと、中学生になったときに生徒が切り替えられない場合が多い。保護者の理解と協力のもと、小学生のうちから「毎日登校する」という基本的な習慣を身に付けさせたい。
フィリピン国籍生徒の保護者は、学校に協力的な家庭が多いように感じる。
教育制度や教育文化の違いからくる日本の学校や学校生活（出欠、生徒指導、部活動、行事、授業参観、懇談会等）に対する認識の違い、意識の違い。
雪が降ったという理由で子どもに学校を休ませる、といった日本の生活習慣・教育観などに対する無知または無理解。文化・価値観が異なるだけなら問題としないが、子どもに不利益が生じる可能性もある問題については、外国籍市民といえども、理解する必要があると感じる。
文化の違いから、学校で生徒を叱責することについて理解が得られないこともある。叱る場面でのスキンシップは体罰と見なされ、皆の前での指導は辱めを受けていることだと考えられることがある。学校側も、生徒の家庭環境を理解し、ともに連携して効果的な指導を目指す必要がある。

○その他について

意見内容
学校でも、日本人生徒が、日本語が不自由な生徒にサポートしてくれる環境ができていることがうれしい。
学校に協力的な保護者が増えているので、大きなトラブルは起こっていない。

イ) 外国籍市民に関する教育上の課題はありますか。

○家庭教育の状況について

意見内容
児童生徒が学校生活を送るうえでの保護者の理解・協力
日本のライフキャリアにおける教育の位置付けといったような教育の重要性の問題から、子どもの学校生活に日々どのように関わるかというような身近な問題に至るまで、保護者が日本の社会事情・習慣を理解したうえで、子どもの教育について判断・行動ができるような学習機会・情報提供の機会の必要性。
日常会話はできるが、授業についていくには困難を抱える生徒が多い。原因としては、家庭学習の習慣がない、家庭で宿題をやっているかのチェックなどを保護者がする時間がないこと等が考えられる。
家庭学習の定着。
保護者はどれが宿題なのか確認できないことがあるため、提出物が不十分になる場合がある。
家庭学習の習慣がなく、学校での日本語指導の時間も限られているため、なかなか学力がついていかない子どももいる。家庭学習の習慣をつけ、自ら学習しようとする態度を育てていかなければならない。

○家庭学習の不足について

意見内容
日常会話はできるが、授業についていくには困難を抱える生徒が多い。原因としては、家庭学習の習慣がない、家庭で宿題をやっているかのチェックなどを保護者がする時間がないこと等が考えられる。
保護者はどれが宿題なのか確認ができないことがあるため、提出物が不十分になる場合がある。
家庭学習の習慣がなく、学校での日本語指導の時間も限られているため、なかなか学力がついていかない子どももいる。家庭学習の習慣をつけ、自ら学習しようとする態度を育てていかなければならない。

○保護者とのコミュニケーションについて

意見内容

意見内容
保護者と児童生徒のコミュニケーション
保護者の日本語力
保護者の勤務時間等による、時間的な制限によるもの
言語によるもの。共通言語でのコミュニケーションの難しさ。（中学生になると、子どもが思春期になることにより、問題が顕著化する傾向があるように思われる。）
母語が十分に話せない子どもと親のコミュニケーションは、深い話はできていない。子どもたちの会話から、気持ちを読み取ることは難しく、学校と家庭との見解が一致しないこともある。
コミュニケーションについては、母子家庭で母親が夜勤の家庭もあり、児童・生徒と保護者の間のコミュニケーションが日常的に不足している家庭もある。そのような家庭は配布物等が保護者に渡っているのかどうかも分からない場合がある。

○言葉や文化の違いの問題について

意見内容
日本語コミュニケーション能力の学習支援
児童生徒の日本語力と教科学習力の定着
日本の生活に適応するために日本の文化習慣の学習支援
クラスでの授業に適応するための日本語能力の習得。小学校高学年～中学生で日本語能力が低い外国籍児童・生徒に対する従来よりも手厚い支援。

○学力について

意見内容
学級での授業について行けず、定期テストにおいて点数をとることができない。さらに、勉強が分からないために宿題に取り組みなくなる。このような状況から、徐々に学校に来られなくなり、不登校生徒が多いという課題がある。
学校校区内に外国籍の従業員が多い派遣会社があり、その関係でフィリピンなどから直接来日する子どもが多いため、高学年での来日の場合は、該当学年の学習進度に追いつくことが難しい。

○進学について

意見内容
進学に関しては、金銭的な理由で私立高校の受験ができず、進路選択の幅が狭まってしまうことがある。保護者の認識の甘さゆえの準備不足や収入の低さが原因と考えられる。
進学を目指していても、私立は学費が高いため公立高校でなければならないという親も多く、結果、進学を断念してしまうことがある。私学助成金などの利用で学費の格差は縮まっているので、子どもが私立高校に進学するための学費を準備してもらいたい。そのための情報提供は行っているが、保護者会などへの出席率も課題である。
高校進学（科の選択）や費用については、小学校へ入学した時点から何度も話をしておく必要がある。貯蓄方法、たとえば、学資保険なども有効的な方法であるなど紹介することも必要である。
後期中等教育、高等教育への進学に対し、日本語を含めた学習支援と奨学金などの経済的支援、またそれらの制度確立と情報提供。
上級学校への進学に必要な金銭面
上級学校進学を目指す生徒がほとんどだが、学力の問題や、保護者の金銭面で中3になってから慌てるケースが少なくない。

○複合的な問題について

意見内容
日本語能力だけでなく、学習障害や情緒不安定の課題も併せ持つ児童生徒に対するより手厚い支援。どんな人もしっかり学力をつけて、それぞれの長所が発揮できる社会人になるための教育を。

○将来について

意見内容
外国籍市民の多くが外国籍市民のみで構成されたコミュニティで生活しているために、子どもたちへ将来モデルを示すバリエーションが少ない。したがって、職業選択をする時に工場内で働くこと以外に、子どもたちが想像できる職業がなくなってしまう。さまざまな職につく地域の外国籍市民と話し、職業選択の幅を増やしていかなければならない。

○プレスクールについて

意見内容
小学校入学前の外国籍児童の支援や保護者との支援として、プレスクールを実施しているが、保護者の送迎や指導者、期間など不十分な部分が多く、行政の人的金銭的支援があると良いと感じる。

○行事等への参加意識について

意見内容
外国人生徒は、ボランティアへの参加が少ない。土日は家族と過ごす、休むという考え方もある。
文化の違いから、学校行事への参加や日々の生活態度などをあまり重要視されていない。
保護者の学校行事に対する意識が低く、行事に参加しないため、悲しい思いをしている子どもがいる。行事の大切さや子どもの頑張りを保護者に伝えて、なるべく行事に参加してもらえるように話していく必要がある。
地域の行事への参加

ウ) 岩倉市の外国籍市民の児童生徒への教育において、今後重視すべきことは何だと思えますか。

○保護者への意識啓発、日本語指導について

意見内容
保護者への情報提供、啓発
家庭での保護者からの子どもへの働きかけ、声かけ
生徒への支援もだが、定住化傾向にある保護者への日本語指導等の支援も必要であると感じる。
保護者への啓発は随時必要であると感じる。就学前のプレスクールから進路説明会に至るまで、子どもの年齢や学年に応じた内容で啓発を行うべきであると思う。

○プレスクールの体制整備について

意見内容
就学前のケア（日本語指導、生活適応サポート）をプレスクールとして行っているが、地域ボランティアの募集、授業者への謝礼など、もう少し体制を整える必要がある。
小学校にスムーズに入学できるよう、プレスクールの体制がもっと整うと保護者も学校側も安心だと思ふ。
幼保段階からの支援
小学校入学前の幼児を対象としたプレスクール活動を一昨年度から行っており、今後も続ける必要性を感じている。しかし、保護者による送迎が不可能な場合の対応や指導者の確保など、課題が多い。
プレスクールの内容の充実化（指導者の人数の確保）

○支援ボランティア等の人材育成について

意見内容
放課後も学習できるようなボランティア団体が充実すると、児童生徒だけでなく保護者の日本語力も高まる。
留学生ボランティアによる教科指導の際の通訳

○学力の底上げについて

意見内容
学習支援
児童生徒の基礎学力の向上のための教育

○経済的な支援について

意見内容
私立高等学校に進学したい生徒がいるが、金銭的な問題で私立に進学できない生徒がいる。愛知県には私学助成金という手厚い助成があるが、外国人の保護者にとっては入学前の3月ないしは4月にまとまったお金を用意することがとても困難である。私学助成金の支給がなされる前の一時的な期間、市による金銭的な援助が必要である。
上級学級進学に必要な学費等の支援

○多言語による対応体制について

意見内容
現在、本市はフィリピン人の児童生徒が増加している。フィリピン語ができる方が市で採用されれば、児童生徒だけでなく保護者とのコミュニケーションも円滑に行えるようになる。
ポルトガル語以外の言語の通訳

○その他について

意見内容
外国人児童生徒への教育に関わる人材の確保と予算の拡充
地域行事で外国人児童生徒が活躍できる場

②外国籍市民の生涯学習活動について

ア) 外国籍市民の生涯学習活動に関する課題はありますか。

○情報提供、PRについて

意見内容
地域の日本語学習教室の情報が不足していると感じる。
まず、何が市で行われているのか知らない人がほとんどであるので、情報提供の多言語化が必要である。また、不規則な勤務形態であるので、日時や場所について柔軟な対応が必要である。
活動内容にまでは言及できないが、活動に対する告知・広報活動をもっと行ったほうがよいと思われる。日本人であるために活動に参加はしないが、知っていれば、該当する方々に案内することはできる。
せっかく地域の日本語教室があっても存在を知らない外国人の市民は多いと思うので、地域の日本語教室についてもっと広めた方がよい。
多言語の生活情報の提供

○参加意識について

意見内容
仕事で忙しく、地域行事への参加は消極的である。また、同じ国籍の人でコミュニティができており、地域の日本人とのコミュニケーションが少ないと感じる。
外国籍の保護者は、派遣労働で休日が不定期な保護者が多く、生涯学習活動の参加に積極的ではない。例えば、上記の日本語教室以外にも気軽に参加できる単発の学習活動等があると参加しやすいかもしれない。

○地域との交流について

意見内容
地域の行事も外国籍市民も参加できるようにする。
外国人の地域との交流

イ) 岩倉市の外国籍市民の生涯学習活動において、今後重視すべきことは何だと思えますか。

○イベント、交流の場・機会等の開催について

意見内容
外国籍の保護者が参加しやすいイベント等を作ることで、地域とのコミュニケーションを図ることができるのでは？（ブラジルのカーニバル等、国際色あるイベントを企画するなど）
日本人と外国人の交流イベントを開くことが互いの文化理解のきっかけになればいいと思う。まずは知り合いになり、交流を深め、友情が生まれることで文化交流につながると考える。外国人が日本について学ぶことだけでなく、我々と子どもたちが今後国際社会で生きていくための学習環境を作ることが大切であると思う。
ワールドフェスティバルのようなお祭りを通じて、母国の踊りや伝統料理などを日本人市民にも知ってもらおう。バザーや民族衣装体験など。
外国籍の保護者同士のみでのコミュニケーションになることが多く、日本人と外国人がコミュニケーションをとることが少ない。日本人と外国人が交流できる機会があれば、国際的なコミュニティや協力的な地域社会の形成につながると思う。
外国人の市民が積極的に参加できるような地域の行事があるとよい。
日本人と外国人が一緒に行う地域行事

○学習への啓発について

意見内容
まず、外国籍市民への生涯学習活動についての啓蒙がなされるべきである。その後、いかに外国籍市民にとって魅力的な活動にするかが重要である。なぜなら、外国籍市民は、面白くなければわざわざ出かけていかない傾向にあるからである。

○日本語等の学習について

意見内容
保護者が子どもとのコミュニケーションのための共通言語を持たない家庭が増えているため、外国人の保護者が日本語を勉強する場がもう少し必要ではないかと思う。しかし、実際には、幼い子どもがいたり、自身の仕事等で忙しかったり、参加したくてもできない方が多いのかもしれない。
定住を前提とした、生活習慣・考え方の理解

○多言語での情報発信について

意見内容
多言語に対応した情報提供

③これからの取組について

ア) 今後、貴団体において外国籍市民への教育・生涯学習活動に関連して取り組みたい、あるいは拡充したい活動がありましたら、お書きください。

○プレスクールについて

意見内容
プレスクール（就学前児童の日本語適応教室）の体制・取組の強化
小学校入学前のプレスクールへの取組強化
小学校入学前の幼児を対象としたプレスクール活動をより拡充する必要性があると感じている。
就学前の準備をサポートするべく、プレスクールを充実させていきたい。また、高等教育機関への就学支援の一環として、高等学校との連携も図っていきたい。
外国籍市民のそれぞれの国の教育事情は日本のものと異なる。そのため、就学中の支援を強化するだけでなく、児童がよりスムーズに学校生活に適応できるように小学校就学前のプレスクールを行ったり、保護者の理解促進のために中学校で情報提供会の開催をより積極的に行ったりしたい。

○進路指導について

意見内容
中学校卒業後の進路についての情報提供（保護者向け）
外国籍市民にとって、高等学校が未知の存在のように考えられていると思われる。日本の進学事情への情報の少なさだけでなく、児童生徒の保護者も母国で高等学校に進学していないという事情も考えられる。外国人の中学生とその保護者を対象に、高等学校を回るバスツアーを企画して、高等学校への不安を取り除きたい。
外国人の子どもたちが希望する進路に進めるよう、小学校段階からの進路支援を行っていきたい。

○その他について

意見内容
日本の学校制度、学校生活についての情報提供（保護者向け）
生活適応教室のポルトガル語以外の言語の指導者の確保
就学前の外国人の子どもに対する支援体制を強化していきたい。

イ) 今後の取組に向け、必要な行政支援、市民や地域の協力等があれば、お書きください。

○プレスクールへの支援について

意見内容
プレスクールへの予算確保、送迎の体制をしていただけたらありがたいです。
プレスクール活動を行うのに必要な予算や人員の割り当て。
就学前のプレスクールを行っているが、希望しているにもかかわらず、保護者の送迎が難しく、参加できない子どもが多いため、送迎の面で市からの協力が得られるとありがたいと思う。

○人材や専門的な支援体制について

意見内容
外国籍市民を取り巻く環境は厳しいだけでなく、言語や情報手段の問題、母国や日本で十分に教育が受けられていないために言語能力や判断能力が低いなどの理由で、情報が得られにくい状況にある。外国人児童生徒、保護者、学校、地域、市役所や児童相談所等の公的機関、医療機関、保護者の勤務先、外国人コミュニティなどを総合的に理解し、それらの中から、その児童生徒にとって一番適切な支援を判断し実行することができるスクールソーシャルワーカーの配置を求める。
ポルトガル語以外の言語に対応できる人材の確保と予算の拡充
放課後に、日本の文化や遊びを教えてくれるボランティア
外国人児童生徒の放課後の学習教室の設置。保護者が宿題を見られず、また、子どもたちも勉強についていくだけの日本語能力がないと宿題を出すことができなくなってしまう。宿題ができないことが恥ずかしいので学校に行けず不登校になるという悪循環を取り除くためには必要だと考える。そのための、人員・場所の確保、多言語での広報、外国人の児童生徒に合った教材の作成等を市に託したい。
日本語適応指導教室では言語能力上の問題だけでなく、習慣の違いや学習障害なども要因となっている場合もあり、効果的かつ適切な指導を行うためには人員が足りていないことが喫緊の課題である。また、授業内での支援だけでなく、通級やプレスクールの送迎などにおいても人員の問題を抱えている。これらの問題に対し、地域のサポーターの協力を仰ぐとともに、担当教職員をもっと増やすことが必要だと感じている。

○情報発信やイベント等について

意見内容
外国人が積極的に参加できるような地域行事
外国籍市民が、学校や教育に興味をもってもらえるような発信が必要である。地域への公開指導は毎年行われているが、各学校での外国人児童生徒の取組が各言語で発信できれば素晴らしいと思う。各言語（中国語、英語、ポルトガル語、スペイン語）と、最低限必要な情報を簡単な日本語で書いた広報を発行してほしい。

(4) 高等学校について

①岩倉市内の小中学校との連携について

ア) 今後、行政や岩倉市内の小中学校と連携して取り組みたいことはありますか。

○学校、地域・家庭との連携について

意見内容
現在も、多方面で地域と連携した取組を行っており、継続していきたいと思っている。今後は、さらに本校の特色を生かし内容を充実させ、小中学校、地域・家庭との連携を強化し、地域貢献につなげていきたいと考えている。

イ) 岩倉市の学校教育において、今後重視すべきことは何だと思えますか。

○重視する分野について

意見内容
道徳性・社会性の向上（家庭・地域、学校がそれぞれ役割を果たし、連携・協働して子どもたちを育成する。）
発達段階に応じたキャリア教育の実施（系統的なキャリア教育を通して、子どもが将来について考え、意志決定、行動選択ができる力を育成する。）
確かな学力の育成（多様なニーズに対応した学校づくりを進め、学習意欲の向上を図り、確かな学力を身に付ける。）

(5) 障がいのある人、児童生徒について

①学校での教育について

ア) 近年の特別支援教育について、感じている課題などがありますか。

意見内容
対象となる児童の保護者も障害があるなど、児童の教育を考えるうえで、児童だけではなく、世帯としての支援が求められており、学校だけではなく、関係機関との連携が必要。

イ) 学校や団体で行う福祉教育について、感じている課題などがありますか。

意見内容
従来の〇〇体験だけでは、「福祉＝高齢者・障がい者など＝大変な人・かわいそうな人」で「助けてあげる人」となっているため、児童生徒や市民が地域社会の主体として考える内容になっていない。

ウ) 今後、障がい児・者への教育や福祉教育等に関して、取り組みたいことはありますか。

意見内容
イ) の課題に取り組むために、福祉教育を推進するための関係者間の共通理解を図るための、協議・情報共有の場の設定。

②障がい者の文化・スポーツ活動について

ア) 近年の障がい者の文化・スポーツ活動について、感じている課題などがありますか。

○人材の不足について

意見内容
支援ボランティアの不足

○バリアフリーについて

意見内容
既存のイベントや活動等に障がい者が参加しやすい取組や配慮

(6) 生涯学習活動について

①生涯学習活動の環境について

ア) 岩倉市の生涯学習施設について、意見や感じている課題等がありますか。

○施設の開館時間、利用時間について

意見内容
現在、市の施設の終了時間は概ね午後9時までとなっているが、あと1時間ないし2時間の延長をしてほしい。
利用時間枠が4時間単位のため、実際に利用されているのが半分の2時間～2時間半で、1時間から2時間はあいている状況である。
利用率の高い部屋については、より有効的に利用するには時間枠の見直しも必要と思われる。
総合体育文化センターは、利用時間の区切りが短すぎるので、それと比べると、生涯学習センターの利用時間の区切りは利用しやすい。総合体育文化センター 多目的ホールは、音響・空調設備が悪く、質の高いイベントが多いのに残念である。生涯学習センターのスタジオ1は、狭いことと入り口が1つしかないことなど、イベントを行うには不便である。
総合体育文化センターについては、休館日がなくなり（年末年始は別）、休憩時間という枠もなくなったことで利用しやすい時間が選択できるようになったが、最終枠の終了時間が早くなったことが、就労者にはデメリットである。

○予約システムについて

意見内容
先行予約制（1月4枠）のため、一般の方の利用希望はほとんど排除されることとなる。安定したサークル活動には良い方法であるが、広い市民利用の面ではマイナスとなっている。
毎月、活動場所である会場（生涯学習センター）の申込みをしているが、3月分くらいをまとめて申込みできないだろうか。そのほうが経費節減にもなると思われる。
総合体育文化センターで大会などを開催する場合に、準備等をする時間が利用時間外でも可能になる様な特別枠があると主催者としては助かる。

○利用料金について

意見内容
市内施設の料金体系の見直し。
生涯学習センターの駐車場は、現在2時間まで無料となっているが、3時間まで無料として欲しい。駐車券の裏面が黒色のため、落とした際に見えづらい。お金を入れなくても良いように生涯学習センター専用のカードを作ってもらえるとありがたい。

○青少年宿泊施設について

意見内容
青少年宿泊施設の希望の家が非常に使いづらい。

イ) 岩倉市の生涯学習情報の提供について、意見や感じている課題等がありますか。

○多様なメディアの活用について

意見内容
媒体に関してLINE、Face book等SNSの活用、デジタルサイネージの活用をもっとしてほしい。また、岩倉独自のSNSヒューマンリンクシステムの使用ができていないことが残念。

意見内容
情報発信方法の多様化

○情報発信やPRについて

意見内容
他市町の文化事業等生涯学習センターでの活動内容が、ポスターで案内はされているが、もっと岩倉市民の目にも止まるようすべきではないか。
生涯学習講座の開催案内以外の情報発信が不足している。講座の内容や様子の紹介、さらにはサークルの活動の様子の報告や、参加者募集の広報などより、幅広い情報発信が必要。
他市町との連携のもとに生涯学習情報の交換

ウ) 岩倉市民の生涯学習活動の参加機会について、意見や感じている課題等がありますか。

○ホームページについて

意見内容
生涯学習センターのホームページはホームページビルダーでの作成と思われるが、即時性に欠けると思われる。市民活動支援センター・総合体育文化センター・生涯学習センター等それぞれ独自でなく、ここを見れば岩倉市の市民生活がより具体的にイメージできるホームページの充実、具体的には「さくらいふ」との相互リンクやInstagramの活用からメディアミックスをする必要があると思われる。

○利用対象者の拡大について

意見内容
平日は、高齢者中心であり、休日や夜間に働いている方々の参加が増えると良いが、どうしても高齢者が多い。
一般の働いている方々が、気軽に参加できる自由参加の講座の開催や、仕事に生かせる内容（スキルアップ）の講座の開催も必要である。

②市民の活動状況について

ア) 近年の生涯学習に対する市民ニーズには、主にどのようなものがありますか。

○人気のある講座や学習分野について

意見内容
趣味や実用講座については、世間で評判となっているものには申込みが多い。
他市町では、本市のようにかなり専門性の高い教養講座が少ないようで、他市町からの参加者も増えてきている。
日頃はなかなか聞くことができない宇宙・気象や脳科学などへの要望が高い。
生涯学習サークルについては、文芸活動団体の高齢化が進み、新規加入者もあまりなく、活動が低下している。健康体操やヨガなどのニーズが高くなっている。

○利用施設や情報の取得などに関することについて

意見内容
スタジオが音楽、体操、ダンスなど幅広い利用に供されるため、非常に高い利用率になっている。しかも、サークルの利用もスタジオに集中しているため、利用しづらい状況である。
一般利用にとって、ここしかない（音楽・ダンス等）と思っても、先行予約制によってサークルがほとんど占めてしまうことから、排除される形になってしまう。運動系は総合体育文化センターを利用してもらおうなど、利用目的（活動内容）に応じて施設の使い分けも必要になってくる。
初めて施設を利用する場合、利用申請と ID 発行が同時という原則が足かせとなることがある。施設に来館していただいても、希望通りに部屋を確保できないと ID 発行もできず再来館していただくこととなる。遠方利用者は特にここが課題となり、電話での仮押さえを求める声が多い。

イ) 今後、行政が取り組むべき生涯学習活動として、主にどのような分野に力を入れるべきだと考えますか。

意見内容
これまであまり参加できない働いている方や子育て中の方が気楽に参加できる当日申し込みの講座が必要。そうした方が自己啓発・スキルアップに生かせる講座。
利便性の高い施設で、働いている方が気楽にスキルアップできたり、憩いが得られる学びの場に力を入れるべき。

③これからの取組について

ア) 今後、貴団体において生涯学習活動に関連して取り組みたい、あるいは拡充したい活動がありましたら、お書きください。

意見内容
ボランティア養成講座の企画
市民ボランティア講座

イ) 今後の取組に向け、必要な行政支援、市民や地域の協力等があれば、お書きください。

意見内容
参加者が地域限定の取組は、その地域や活動対象や内容にあった施設で行い、無理に特定の施設で行わない、施設の有効的活用を図る。

(7) 文化・芸術活動について

①文化・芸術活動の環境について

ア) 岩倉市の文化・芸術施設について、意見や感じている課題等がありますか。

○施設について

意見内容
史跡公園に鳥居建民家以外にもう一つ建物が欲しい。史跡公園で茶席を設ける際に、他団体（民謡・太鼓・大正琴）と共催できると良い。
陶芸作品の作製には、長時間の焼成時間を確保する必要があり、宿泊が可能な希望の家に陶芸窯を設置してもらったが、それでも時間に制約があり、希望する際には2～3昼夜の焼成ができるようになるとよい。陶芸窯の定期点検やメンテナンスが大丈夫か心配である。

イ) 岩倉市の文化・芸術情報の提供について、意見や感じている課題等がありますか。

○情報発信について

意見内容
いろいろな行事の内容を頻繁に紹介してほしい。
参加する意欲のある人にとっては、提供の媒体は多いと思います。ただ、ネットの情報が古いことが多く、古い情報は早めに消去してほしい。
質の高いイベントが多いので、市外の人にも参加してもらえよう、インターネットや新聞などで働きかけをしていきたい。

ウ) 岩倉市民の文化・芸術活動参加機会について、意見や感じている課題等がありますか。

○人材の高齢化等について

意見内容
活動を支える人材も高齢化しており、1人でいくつも掛け持ちをしている状況である。若い人材育成が急務である。

○成果の発表について

意見内容
美術展による審査結果は表彰式の時に受賞者に対してのみ行われているが、作品に講評を明示したほうが効果的であると思う。近隣の市町でもそのように実施している。

②分野ごとの文化・芸術活動の状況について

ア) それぞれの分野における活動上の課題や、今後必要となる取組は何だと思われますか。

○音楽活動について

意見内容
活動における課題は、高齢化対策である。例えば、車いすで舞台上に上がれるとか、会場に入るためのエレベーターの案内を見やすくするとか。イベントの集客数の向上。

○芸術活動について

意見内容

意見内容
岩倉焼（陶芸）と言えるものが出来て、広く市民に愛される物・お土産物が出来ると嬉しい
会員の高齢化 会員の新規加入促進 岩倉市の美術展では、無鑑査出品が多くを占めており、一般作品の申込みが少ないように思われる。新しい人が出品したくなるような美術展とならなければいけない。

○舞台活動について

意見内容
高齢化が進み若い方に入って久しいが、なかなか入ってもらえないのが現状です。このところ数年、文化祭開催期間中に「民踊のつどい」を行っており、「今年もあるの?」と関心をもってくれる人もいので、少し定着したと思われる。「民踊まつり」の直後でもあり忙しいが良かったと思う。

○その他（茶道・華道など）について

意見内容
指導者が高齢となり、若い人たちに次を担って欲しい。

イ) 今後、貴団体において文化・芸術の振興に関連して取り組みたい、あるいは拡充したい活動がありましたら、お書きください。

○人材確保等について

意見内容
過去9団体（グループ）で構成されていましたが、健康面や高齢のため存続できなくなり、現在4グループとなってしまった。陶芸を楽しむ仲間を増やしたい。
団員の高齢化のため、積極的に行事に取り組む意欲に欠けている状態が残念である。現在の団員の生きがい失わない程度に質の向上と技術の向上を心掛けたい。入団希望者も高齢化しており、小中学校の母親などに働きかける機会があると良い。

ウ) 今後の取組に向け、必要な行政支援、市民や地域の協力等があれば、お書きください。

○情報発信・取得について

意見内容
多くの人に史跡公園で行う市民茶会や月釜などに参加してほしいので、広報紙に掲載してほしい。
福祉施設等の訪問に取り組んでいるが、その際に受入施設、曜日、時間等の詳細が分かる情報があると良い。

○活動者の増加支援について

意見内容
火を扱うことから、焼成経験者・研修を受けた人であることが条件となるため、人材を増やすことは難しい。
以前は市主催の初心者陶芸教室があり、修了生がグループで入会されてきましたが、最近は全くなく、仲間が減るばかりで悲しい。
初心者陶芸教室を行い、焼き物を楽しむ仲間が増えるようお願いしたい。

○講座の増加について

意見内容
各サークルの公開講座がもっとあっても良いと思う。

(8) スポーツについて

①岩倉市のスポーツ環境について

ア) 岩倉市のスポーツ施設について、意見や感じている課題等がありますか。

○利用料金について

意見内容
減額制度があり有難い。
市外の人や、営利目的の利用はもっと料金を高くすべき。
・年会費や6カ月会費制(個人・法人・その他の団体) ・年齢別 ・市内と市外との利用者には料金に差をつける などの取組はどうか

○施設予約のシステムについて

意見内容
施設予約について、加盟団体と加盟していないグループや個人が利用する場合、不公平さとともに情報がオープンにされていないと思う。例えば、4ヶ月先の空き状況をみても、多くの施設は既に予約が埋まっている。とくに、勤労者が利用したい土・日曜日などは、インターネット時代の今、ルール以外の存在はあってはならず、団体の年間利用の件もほかの市民に説明できるようにルール化し、情報をオープンにするべき。
「個人・法人・その他の団体」と区別をするなど施設利用の会員制の導入

○学校施設の開放について

意見内容
小・中学校スポーツ施設の開放は、有難い。

イ) 岩倉市のスポーツ情報の提供について、意見や感じている課題等がありますか。

○情報発信について

意見内容
市のホームページの活用をもっと多くする必要がある。広報よりも効果があると思う。広報の内容に、専用ページを設けることはできないか？
・体育協会加盟団体の各団体をアピールする場所が少ない。掲示板や、ホームページ内への動画の提供など幅広く公表してはどうか？ ・岩倉駅改札にあるディスプレイを利用してPRをすることはできないか。 ・市役所など公共施設の持ち合い場所にテロップなどで情報提供をしてはどうか？ ・スマートフォンの普及により、スマートフォン用のホームページの拡充が必要ではないか。 ・体育協会の活動のPR不足、市の委託行事についても積極的にPRする。
施設内(市役所・総合体育文化センター等)の掲示板を利用できないか。(掲載例:①団体の活動内容、②指導者の募集など)

○人材の確保について

意見内容
「一市民一スポーツ」であれば生涯学習課スポーツグループの人員を増やし積極的な活動をすべきである。

○施設について

意見内容
市の施設にて行っているが、今の柔道場では小さいです。小・中・高生が合同でできる広さがほしいと思っている。

ウ) 岩倉市民のスポーツ参加機会について、意見や感じている課題等がありますか。

○イベントについて

意見内容
市民体育祭は競技性が高い競技が多く、もっとレクリエーション性の高い競技を増やし、参加者の増員をねらう。また、マンネリ化しているように感じるので思い切った種目の見直しが必要ではないか。
区対抗カローリング大会トーナメント・年間のリーグ戦方式の開催。
レクリエーションスポーツのプログラムが増えてきているが、競技指向や本格的な技術を学ぶものが少ないような気がする。プロの選手を呼んで、教えてもらえるイベントを増やしてほしい。

○子どものスポーツなどについて

意見内容
名鉄犬山線の東側の地区への出張教室、曾野小・東小・五条川小・南部中学校で行う計画があると良い。
小・中学生スポーツ活動は、良好と思います。

○参加者や指導人材について

意見内容
各スポーツ団体のOB・OGなどに声掛けをし、指導などの協力を得てはどうか。
体育協会加入団体で、バレーボールを見ると参加者の減少がみられる（働き盛りの参加者が少ないように感じる）
高齢者は、ゲートボール・グラウンドゴルフ等の参加者が多いと感じている。
健康マラソン・スポーツクラブ・スポーツレクリエーション祭などあるが、毎回限られた人たち（加盟している団体の会員）の参加が大半である。

○情報発信について

意見内容
もっと大々的に広告・告示をしてほしい。

②ライフステージごとのスポーツ活動の状況について

ア) それぞれのライフステージにおける活動上の課題や、今後必要となる取組は何だと思われますか。

○子どもについて

意見内容
<ul style="list-style-type: none">・岩倉のスポーツ少年団は単一種目の少年団であるが、できれば複合種目の少年団になることが望ましいと思う。幼児期からいろいろなスポーツを体験することがよいとされている。・運動おんちな子への対応 「かけっこができない・ボールが投げられない、受け取れない・転んでも受身が取れない・握力がなく、鉄棒にぶら下がれない・団体行動ができない等」といった運動おんちの子どもたちが増えてきている。その要因として、「兄弟姉妹がいない・遊べる場所がない・時間がない・親と一緒に遊んでやらない等」があり、運動おんちの子どもたちを改善してあげられるような環境づくりを行う必要がある。・岩倉市はスポーツ少年団が充実していると思う。・小中学校でクラブ・部活動に参加していない生徒がいると思われるが、「一市民スポーツ」を推奨している市として、学校として近年人気のあるサッカー・野球・テニスなど競技性の強いスポーツだけではなく、生涯スポーツのような誰でも参加しやすいスポーツなどを学校の中に取り入れる場を提供してはどうか。ニュースポーツを知らないので参加しないという人も多いと感じる。・最近の中学校の部活動において、顧問の先生にきちんと指導してもらえないとの話が聞かれる。学校側のクラブ活動の指導方針はどうなっていますか。スポーツの基本的な技術を指導してもらって、初めてそのスポーツの楽しさを知ることができると思います。・「東京オリンピックを目指そう」というようなプログラムを提供し、やる気のある子どもを育成すると全体が盛り上がるのではないかと。

○青壮年期について

意見内容
<ul style="list-style-type: none">・女性は仕事・家事、男性は仕事の影響でスポーツに関わる時間が限られているため、スポーツ人口が増加しにくい環境にあると感じる。そのため体育協会の会員も増えない状況にあると思う。・体育協会だけでなく、おのおので活動しているスポーツ団体の活動が定期的に行える場所づくりが必要と思う。・インターネットなどを活用して、若い人が団体に入りやすいような環境づくりが必要と思う。 <p>取組</p> <ul style="list-style-type: none">・市内の企業・店に賛助会になっていただけるように依頼のダイレクトメールを送る。・高校生・大学生のトレーニング教室の開催。・企業の連携は、各事業所内に健康づくり委員となる位置づけの役職を創設し、市のイベント・各団体の発表会などに連携参加をしてPRしてはどうか。・企業と連携をすべき。音楽はセントラル愛知交響楽団と提携しているが、スポーツの世界も実業団やクラブチームと提携してより質の高い教室などができないか。

○高齢期について

意見内容
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none">・生涯スポーツとして、スポーツ・レクリエーション協会の加盟団体の所属メンバーも高齢化し

意見内容

て加入者が減少している団体も多い（特に競技団体）。

取組み

- ・高齢社会の中、健康維持への関心を高めるために、日常生活の中にスポーツを取り込むことができないか。各区の集会場を利用して、ヨガ・太極拳教室・ストレッチ体操等を開催する。市の保健推進委員・スポーツ推進委員と協力して実行する。
- ・高齢者のスポーツ活動を周知するため、種類・場所・曜日・時間等の広報があると良いかと思う。
- ・市民体育祭は若い人たち向けの競技が多いため、各区・地域の高齢者団体とで健康づくりのためにゲーム感覚で取り組むことができる体操やダンスなどを計画し、参加する。
- ・高齢者の方にはできるだけ参加していただき、若い人との交流ができるような環境にしたい。
- ・市の健康課などとの連携は、良くやられていると思う。高齢者の目的は健康なので、取組に対し結果を「見える化」し、もっと情報発信をしていただきたい。

イ) 今後、貴団体においてスポーツ推進に関連して取り組みたい、あるいは拡充したい活動がありましたら、お書きください。

意見内容

- ・スポーツ指導者の育成とレベルアップを図る。
- ・総合型スポーツクラブが小学校低学年を対象とした児童に、いろいろなスポーツの体験ができる活動として、スポーツクラブに保険費用を払えばどこのスポーツ少年団にでも体験練習をさせてもらえるような制度を設ける。
- ・どう取り組むかは別として、会員増加が必要と考える。
- ・スポーツ加盟団体の会員増員を図るために、体験や教室を計画・実践したい。
- ・体育協会運営委員の増員を行い、各団体の意見などを吸い上げやすくしていく。
- ・スキーが生涯スポーツである記事等の特集を広報に載せて、スキー教室の募集をしてほしい。過去からの実績や取組が無駄にならないような努力をお願いします。

ウ) 今後の取組に向け、必要な行政支援、市民や地域の協力等があれば、お書きください。

意見内容

- ・子どもたちが安心して安全に遊ぶことができる広場（公園）が今以上に増え、かつ広くなると良い（高齢者はグラウンドゴルフ等に利用できる）。
- ・教育こども未来部になり、3課の横のつながりを上手につなげれば、一生涯の岩倉でのスポーツの流れを考えることができるのではないかな。
- ・スポーツの増進に向けた活動をしている団体の横の繋がりが必要と考える。
- ・設備の充実。
- ・人材育成（スポーツをする人だけでなく指導者を含む。）に必要な経費の負担・補助や謝礼の拡充。
- ・中学生のクラブ活動において、専門でない先生方が指導される場合の技術的支援を各団体で協力ができる仕組みが確立されれば、クラブ活動の充実ができるのではないだろうか。
- ・地域には隠れた人材がたくさん埋もれている気がします。積極的に地域に出られるような登録制度の拡充を期待します。

(9) 歴史・文化について

①文化財や歴史・伝統の保存・継承について

ア) 岩倉市で、将来に伝えていくべき文化財や歴史・伝統は特に何だと思われますか。

○はにわ・土器について

意見内容
西出古墳から出土した埴輪。岩倉城跡から出土した土器や遺構。過去に岩倉で行われていた行事等を発掘・調査して再現することが大事である。

○山車について

意見内容
寛永2年(1625年)から、寛永6年(1629年)に製作された3台の山車の保存及び伝統文化の継承。 山車まつり のんぼり洗い 岩倉城跡

イ) 岩倉市の文化財や歴史資料等の保存・展示活動について、意見や感じている課題等がありますか。

○施設について

意見内容
収蔵庫は展示中に気温・湿度・光の変化を一定にすべきで、そのような施設であれば、他の施設から資料を借り受けることが可能となる。
郷土資料室は、図書館の3階にあるため常設展示を見に来る人が少ないことから、休館日を多くしてもよいと思う。開館時は説明員を配置し体験等が行えるとよいと思う。

○情報発信について

意見内容
現在山車庫に設置されている山車の紹介プレートが劣化しているので、山車のカラー写真入りの紹介プレートに新調してほしい。
市民に対するPR活動が不足している。

ウ) 市民への文化財や歴史・伝統の保存・継承活動に関する情報提供や啓発活動について、意見や感じている課題等がありますか。

○人材について

意見内容
文化財に興味のある人を引き付けるような講座を開催し、同時に文化財に関する活動をしていただけるような人材を募集する。
文化財の保存・継承活動に、退職した公務員のような経験豊富な人材に協力を願う。
山車まつりを伝承していくうえで、世話役・参加する大人・子どもが不足している。役員の入替えも後継者がなく苦しい状況である(高齢化)。
小学校・子ども会での勧誘等にも行政の力添えが欲しい。

○情報発信について

意見内容
企画展示中の様子を広報紙等を利用して紹介するとよい。

意見内容
市内の小・中学生に関心を持ってもらうため、見学やまつりへの参加の場を増やすことに取り組む。

②これからの取組について

- ア) 今後、貴団体において文化財や歴史・伝統の保存・継承に関連して取り組みたい、あるいは拡充したい活動がありましたら、お書きください。

○偉人等について

意見内容
岩倉市に縁のある偉人を深く調べていきたい。
今日のこのまちに貢献した人物を調べていきたい。

○石について

意見内容
岩倉市内には、文化財といってもよい石が数多く存在すると思われる。それら石のいわれを調べるとともに、その場所へ導くためのパンフレット等を作成したい。

○山車について

意見内容
山車の保存継承のため親子練習教室を行い、市内の小学校や子ども会に情報提供し参加者を募る。
岩倉市山車保存会として、3町共同で山車まつりの市内全体への浸透を図りたい。
10年後に迫る創建400年祭の盛大な盛り上げ。そのための巡行順路の整備（電線地中化等）と400年祭への資金援助。
お囃子要員（子ども）の積極的な勧誘と後継者の育成活動に取り組みたい。

- イ) 今後の取組に向け、必要な行政支援、市民や地域の協力等があれば、お書きください。

○調査について

意見内容
文化財の悉皆調査（平成7年実施）の第2弾をお願いしたい。

○経済支援について

意見内容
山車の修理・修復に1300～1500万円の費用が必要となる。補助金の増額をお願いしたい。
山車の維持・補修費用の行政からの3分の2の費用援助を実現して欲しい。

○PRについて

意見内容
世話役や後継者の発掘への行政からのPRや支援が欲しい。
市の観光課（仮称）を配置し、岩倉市の文化財・歴史・伝統・名産品のPRを徹底的に行ってほしい。

○その他について

意見内容
駅前、桜通り線の早期拡張及びまつりのイベント会場にしてほしい。

(10) 図書館について

①図書館の利用について

ア) 近年の図書館利用者のニーズ（意見や改善要望など）には、主にどのようなものがありますか。

イ) 「図書館」について、現在感じている課題などがありますか。

ウ) 「図書館ボランティア」の在り方について、現在感じている課題などがありますか。

(11) その他・自由回答について

○幼児教育・家庭教育について

意見内容
子育て親育ち推進事業を利用させていただいている。今後も継続をお願いしたい。

○学校教育・学校教育について

意見内容
地域の学校（コミュニティ）と学校の連携

○外国籍の児童生徒について

意見内容
金銭的な豊かさが人生の豊かさに一致するとは考えたくないが、必ずしも一致しないとは言えない。日々、外国人の児童生徒とその家庭と向き合っていると、最後には金銭的な問題に行き当たることがたびたびある。生涯学習を推進するためには、まず、金銭的な問題を解決してからではないと、外国籍市民が生涯学習をしたいと思う環境をつくれなければならないのではないだろうか。そのためにまず、外国籍市民の雇用条件を見直し、低賃金での長時間労働や不安定な雇用状態を解消することを提言したい。その方法の一つとして、障がい者の雇用を促すために作られたルールのように、正社員の何%を外国籍市民にしなければならないと言ったルールを岩倉市で作っていただきたい。大人たちが安心して働けるようになれば子どもとふれあう時間が持て、子どもが安定し、上級学校への進学をあきらめずに済むようになる。外国人の子どもたちが、上級学校へ進学し、高度な技術、技能を身につけられれば、将来、岩倉市民として現況よりも良い存在となるであろう。

○生涯学習について

意見内容
人には好みや得手・不得手があり、家の中で落ち着いて生活している人に外に出てもらうことは難しいと思う。生涯学習センターが出来てから、多くの方々が利用され活動していることはとても良いことだと思う。
生涯学習センターを既存の団体（サークル等）の活動の場としていくのか、一般市民も自由に活動・活用できる場としていくのか、今後どこかで線引きが必要。 安定した活動を保障するには、施設の固定化が必要であり、市のさまざまな施設を目的に応じて活用する方策が欠かせない。 IT 関係の研修・講座はまだまだ需要が高いので、市民プラザを拠点に設備を集中して活用できるようにする。（分散させない）

○文化・芸術活動について

意見内容
文化協会・音楽連盟に所属している団体は分かるが、岩倉市で活躍している団体はさらに多く、すべてを把握することはできないと思うが、どのような団体がどのような活動をしているのか知る機会はないだろうか。分野別に分かると良いと思う。
音楽イベントでみても、同一日・同一時刻の開催が多く、それでは参加する側も限られてくる。多様性が求められる時代ではあるが、選択肢が多いがそれを選ぶ人は一人なので惜しい気がする。

○スポーツについて

意見内容
<ul style="list-style-type: none">・乳幼児からのスポーツへの体験をさせることができるメニューを考える。・親子でレクリエーションスポーツを楽しめる講習・教室を増やす。・中学校での部活動にスポーツ指導員を雇用し、教師の補助役とする。

意見内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年問題の委員会でも話題に出る問題として、性・人と同じ行動ができない等いろいろあるが、学校任せでなく、個人的には家庭が問題なく生活できているかである。その意味で子どもの指導も大事であるが、親が問題だと思ふところがあり、親の教育が必要ではないかと最近特に思う。但し、どのような教育が良いかは分からないのが課題である。また、子と親が向き合っていないと感じるときがある。 ・ スポーツは文化であり、セクショナリズムにならないよう市全体で考えていただきたい。 ・ 幅広い視野が必要であり、かつ、いろいろな部署との連携が必要であると感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフステージごとのスポーツ活動もありますが、幼児から青年・高齢者まで幅広い年齢層が一緒にスポーツを楽しむことができるスポーツクラブをつくっていききたい。 ・ 岩倉市になく、近隣の市町にある民間スポーツ施設との利用提携（利用契約）ができないか（プールなど）。

○歴史・文化について

意見内容
<p>くすのきの家の2階にある展示室には、発掘された土器等が展示してあるが、展示室を示す看板・案内看板がないので設置してほしい。</p>
<p>図書館3階の郷土資料室を活動場所としているが、倉庫も狭いことから新たな施設を設置してもらい、活動場所を移したい。併せて専属の学芸員を配置してほしい。</p>

○その他について

意見内容
<p>さくらの家は、利用している方も多いようだが、遠くてなかなか行くことができないといった声も聞こえてくる。それぞれの地域に活動できる場所（施設）があつて、デマンドタクシーも利用しやすい方法を考えてもらえるとよいと思う。車を運転できない人からの意見を聞き、家の中に籠っている人の意見を聞いてみてはどうか。</p>
<p>アンケートの趣旨とは異なるが、商業施設以外の防犯カメラが少ないように思う。事件・事故があつた場合のことを考えると心配である。</p>
<p>生涯学習関連施設を活用し、学校卒業後も生涯にわたり文化芸術やスポーツに親しむ機会にふれ、市民が豊かな人生を送ることができることを望む。そのためにも、各学校の主体性のある取組はもちろんのこと、社会教育団体、NPO等との連携強化が重要であり、市がその調整役としての中核を担い、岩倉市の基本目標の一つである『豊かな心を育み 人が輝くまちづくり』を実現されることを期待する。</p>
<p>小さなまちなので、女性・老人・子どもにとっては施設も多く、使いやすく、便利で住みよいまちだと思ふ。若者・男性などが参加しやすい状況を整えると、市はもっと活性化するのではないかと思ふ。</p>
<p>外では老人クラブの方々がグランドゴルフ等々を楽しみ、本来体育系でない感じの人たちも大勢楽しんでいる姿を見ると、地域の活動や人のつながりの大切さを感じる。</p>

3 面談聞き取り調査

(1) 岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室

実施概要

	内容
日時	平成 28 年 1 月 27 日 14:00~14:40
場所	岩倉東小学校
参加者	15 名
事務局	岩倉市教育委員会 2 名 (石川課長、今枝主査) 株式会社ジャパン総研 1 名 (江口)

①保護者について

- 定住化が進み、戸建て住宅の購入にお金を使う家庭が増えている。子どもを進学させることよりも、住宅購入にお金を使うため、進学を諦めざるをえない子どもがいる。
- 母国に家族・両親が住んでおり、日本で稼いだお金を仕送りに回している。その結果、自分たちが生活する最低限のお金しか残らない。従って、進学などを見据えた預貯金などにはお金が回っていない。
- 外国人といっても国籍によって違う。ブラジル人の場合、リーマンショックでいったん帰った人たちはいるが、残っているのは定住していこうという気持ち強い人たちである。ただ、ブラジルの景気が良くなったため帰った人たちもいる。ワールドカップ後ブラジルの景気が悪くなっているようなので、その反動があるかもしれない。オリンピック後どうなるかは流動的である。
- 外国籍市民は小牧市もものすごく増えている。全国的には増えていないが、愛知県を中心にこの辺りだけが増えている。
- 経済的基盤が安定していない家庭があり、多くは派遣従業員や期間従業員で、正社員の割合が 20%程度である。安定した職に就けるかどうかでその後の方向性が決まる。
- 生産ラインで働くような保護者の場合、日本語を使う必要性がほとんどないため、日本語が上達しない。しかし、子どもは日本で生まれたり、小さい時から日本に住んでいたりして、子どもにとっての母語は日本語ということになると、保護者との共通言語がないということになる。子どもも片言のポルトガル語は話せるが、深い話はできない。それが顕著に現れるのが中学生以降で、進学の問題や思春期特有の悩みなどを母親に話しても分かってもらえないし、他に相談できる親族はいないため、心に問題を抱えている子どもが増える傾向にある気がする。
- 保護者がポルトガル語しか話せなくとも、子どもがポルトガル語を話せれば共通言語があるため問題はない。共通言語がないというのが問題である。
- 母親は日本語が少し話せるがほとんどスペイン語しか話せなく、子どもはほぼ日本語で話す家庭があるが、分からない言葉がある場合、子どもが母親に日本語で話してと頼むが、母親は日本語では説明

できないと言って、そのままその話はなかったことにしている。

- 文化の違いもあるかもしれないが、それよりも教育に対する考え方の違いや学校教育への重要度の違いがあるかもしれない。
- フィリピン人の保護者は、経済的状況が厳しい家庭が多い。ブラジル人は自分の意志で稼ぐために日本へ来ているが、フィリピン人の場合は母国にいないところがないため日本へ来ていることが多く、その違いが大きい。
- 現在、10言語に対応している。今後、爆発的ではないにしても、多様な言語に対応する場面が増えていくのではないかと。
- 岩倉市の日本語教室で行っている情報提供会を年2回行っている。一つは進学説明会で、中学校卒業後の進学についての教育システムやそれにかかる費用について、市内の小学校1年生から中学校3年生までの保護者と中学校1年生から3年生までの生徒を対象として、夏に行っている。もう一つは、3月に行っている情報提供会で、高校進学を見据えた中学生の送り方について、小学校1年生から中学校3年生までの保護者と小学校6年生と中学校1年生の子どもを対象に話している。意識の高い保護者はこういった情報提供会等に毎回参加するが、来ない保護者にどのように情報提供していくのが課題である。意識があまり高くない保護者や仕事の関係で参加できない保護者に早い段階から情報提供を行い、意識を高く持ってもらうことが課題である。参加する保護者の方が割合的には多い。
- 小学校では1日入学を入学前の就学時健診の際に、対象となる外国人保護者を集めて、小学校での教育内容、掃除や給食などの学校生活のこと、課外活動ができることなどをプレゼンテーションで簡単に説明している。その際に、進学を見据えて費用などの大まかな話をしているが、行事前に翻訳文書で持ち物の確認や行事案内をしている。
- 情報提供会等に参加してもらうために、まず紙で案内を出し、1週間前ぐらいに確認のために直接親にwebメールを送信する。来てもらいたい家庭には直接電話することもある。

②外国籍の児童生徒について

- 未就学の子はいないが、学校に来ない子はたくさんいる。
- 言葉ができなくて教科学習についていけない、宿題ができない、授業が分からないなどで学校へ行きたくない子がいる。
- 岩倉中学校では、中学2年生の日本語が話せない生徒のうち、3名は3学期に1度も来ていない。1名は大体来ている。2名はちょくちょく休むというのが現状である。来ている子は小学校5・6年生の時から来ている子で、日常会話は問題がない生徒である。
- 中学生では言葉の問題というよりは、教科学習についていけないことのほうが大きい。言葉ができないから友達もできない。小学生なら問題ないことでも中学生ではクリアできないことがある。
- プレスクールについては今年で3年目であり、発展段階ではあるがそれなりに効果が出ているので、今後充実していかなくてはならない。現在授業をしてもらっているのはボランティアの先生方とブラ

ジル人指導者で、今後バックアップをしっかりとやっていくことによって、内容や教材も充実してくるのではないか。入学前に児童の様子を把握したり、保護者と繋がりができたりして、有効的な手段だと思っているので、プレスクールの充実はぜひ行ってほしい。

- プレ教室への送迎を保護者ができないために、その学校で十分な指導がなされていない子がいる。それができるような予算や手立てがあれば、もっと充実できる。また、定期的でなく不定期で行われていることが問題である。
- 学校の勉強についていけるよう基礎学力を上げるための勉強をみってくれる教室があれば、夜、保護者がいない時間帯に子どもたちが行って、そこで宿題をみてもらうことができる。そうやって、夜、勉強する習慣ができれば、学校へ行かなくなっても自宅学習の習慣ができる。勉強や宿題をみてもらえる場があれば、子どもたちにとっても保護者にとってもよいのではないか。
- 事例研究会で、中学校の外国人生徒の不登校を減らすために、地域や心理的な病院、高校進学、社会的援助等、その生徒に一番合う支援の仕方を探せるスクールソーシャルワーカーが学校にいればよいという話があった。

③日本人の児童生徒について

- 担任の先生がグループ分けをするときに、外国人児童のサポートをしてくれる子を配置して、その子が発言できるような配慮をしている。外国人の子が少ない学校では、皮膚が黒いことなどの差別的な発言をすることがあるが、そういったことがあった場合は、集会などで校長先生が、世界には皮膚や髪の毛の色の違う子がいて、そういうことを言うてはいけないと話をしている。今問題になっているのは、テロやイスラム国などの行為をニュースで報道されるのを見て、外国人の子に対して母国は悪い国だなどと言う子が増えた。校長先生が優しい日本語でみんなに実情を話している。校長先生の話したことを日本人の子たちが保護者にどのように話すかによって、保護者も受取り方が違ってくるので、適切な対応が必要である。
- 北小には外国人児童が学年に1人か2人ぐらいしかいない。小学校に来たばかりのころは周りに日本人の児童しかおらず、外国人教師もいないため、本人は孤独で学校に来たくない、勉強もしたくないと思っていたが、担任の先生がクラスの子に話したり、レベルが低い子にも分かるように丁寧な授業をしたりすることによって、分からないなりに勉強を頑張れるようになってきて、現在では、日本人の子にちょっかいを出されたりしてもあまり気にせず、クラスに友達がたくさんいるから大丈夫だと思って学校に来られるようになってきている子もいる。
- 国籍の違いでいじめが起こるといっても、考え方の違いから誤解が起こることの方が多いのではないか。そういった場合、担任の先生などが適切な指導をして解決している。
- 外国人の子の少ない学校では、先生方が意識して配慮している。外国籍の児童生徒が多い学校では良い意味でも悪い意味でも差別なくやっている。先生方が適切な個別対応をしている。
- 大人は差別・偏見を持っていて、地域公開を行うことを不動産業者に事前に知らせなければならないという現状がある。一方、子どもたちは作文に書いてあるとおり、学校には差別は誰もしないと感じ

ている。外国人との関係を肌で感じている子どもの感覚と、外から見ている大人の感覚の違いがある。

④社会教育、生涯学習活動などについて

○大人を対象とした日本語教室について、他地区と岩倉市との違いは団地のコミュニティ中にNPOやボランティアなどの団体がいないということである。岩倉市の場合は一部でしかやっていない。団地の中で距離的にも心理的にも気軽に行ける場所があればいいと思う。

(2) いわくらOYGクラブ

実施概要

	内容
日時	平成28年2月1日 12:30~13:35
場所	岩倉市役所
参加者	1名
事務局	岩倉市教育委員会 2名(片岡課長、中野主幹) 株式会社ジャパン総研 1名(江口)

①会の活動について

○会員数は、多い年で30名ぐらいである。会員の年齢層は30歳半ばから40歳前半、子どもの年齢層は3歳から社会人の方までさまざまである。立ち上げのきっかけは県からの委託事業であり、助成金により運営していたが、その後自立した運営で進めようということで、現在に至っている。

○日頃から父親同士でネットワークを築き、さまざまな子どもの状況をみたり、相談相手をつくったりすることが、いざという時に非常にプラスになる。子育てを母親任せにしていると、子どもに問題が起こった時にどうしていいかわからないという場合がある。小学校低学年までは総論的な考え方でもよいが、小学校高学年や中学生になると家庭の状況や周囲の環境によって、子どもの問題が多様化してくる。問題が起こるまでに父親がいろいろな人と信頼関係をつくっておけば気軽に相談できるが、そういう関係が築けていないと相談もできない。

○仲間づくりや、地域貢献を目的に会に加入する人が多い。気楽に来てもらって構わないと声掛けを行っているが、入会すると何か義務や負担が発生すると感じている人が多い。餅つき大会をやった時のアンケート結果によれば、「お客さんとして参加することには抵抗はないが、運営側に入ることには抵抗がある」人が多いという結果がみえた。

○いわくらOYGクラブは、各小学校区にOYGクラブをつくるというのが最終的な目標である。各小学校区で特色ある取組ができればよいと思う。

②地域教育について

- 地域教育を進めるにあたっては、一過性のイベントを行うだけでなく、緩やかな集合体の形成を目指すのがよいのではないかと。例えば、「水辺を守る会」の活動は多世代で行っている良い例である。岩倉にとってシンボリックな五条川を通じた活動をしており、クリーンアップ五条川では企業体や子ども会、老人会、婦人会など800人強の幅広い層が参加される。ただ、参加される人は毎年同じ人が多いようなので、もう少し参加対象者を広げられるようにしたい。
- クリーンアップ五条川終了時に、婦人会が作った五目ごはんと豚汁を振る舞うことをしているが、食べ物を振る舞うこと（出されたものを食べることに抵抗を持つ人も増えて来ているようだ。幼稚園などで餅つき大会をやると、食べるのはついた餅ではなく、パック詰めの餅を調理して子どもたちに食べさせないと不衛生であるという人がいる。そういうことがまかり通る世の中になっている。同じ釜の飯を食って頑張ろうということにさえも嫌悪感を持つ人が出てきていて難しい。

③学校教育について

- 地域と学校との連携は非常に重要である。しかし、地元企業と連携して行うキャリア教育の例をとってみても、担任の先生がキャリア教育や職業体験の目的や効果を明確にしていない先生がいると思われる。校長先生や教頭先生など運営に携わる方々は、地域との繋がりというものに対してとても重要視しているので積極的だが、その思いが担任の先生にまで十分に伝わっていないように思われる。
- 市民が参加するにあたって、学校には学校の事情があるということを行政が市民に訴えてもよいのではないかと。また一方で、地域との関わりを持つ必要性を学校の先生方に訴えられてもよいのではないかと。
- 比較的うまくいっているのは瀬戸市だと思う。瀬戸市は厚労省から補助金をもらって商工会の中に事務局をつくり、キャリア教育のシステム構築を行っている。瀬戸市は瀬戸物のまちであり、地場産業を子どもたちに伝えていかなくてはならないという意識がある。岩倉市の商工会も連携して行くべきではないかと。
- 岩倉総合高等学校が岩倉市にあって良かったと言ってもらえるようなネットワークづくりをしてもらえるとよいと思う。岩倉総合高等学校のキャリア教育の先生は、いろいろな繋がりをつくりたいと願ってお願いしても嫌がられ、纏まった人数を受け入れてもらえる所もなかなかなく、岩倉市内の企業との繋がりをつくれなことを残念がっている。大きな企業でないとできないと考えていること自体が、そもそもの間違いだと思う。

④今後の取組について

- 根本は、「自助」「互助」「公助」の精神や、「権利を主張する前に義務を果たせ」などの哲学が大切だと思う。家庭は最小のコミュニティであるので、よい家庭が集まっている地域はよい地域になる。よい地域が集まっている国はよい国になる。さまざまな家庭があるが、まずは自分で何とかしよう、次

に近隣で腹六分目の付き合いで助け合おう、それでもうまくいかない場合に行政に助けをくださいという順序立てを根付かせていくことが大事なのではないか。それを根付かせないと、ちょっとしたことで人は不平不満を言い始める。役所といっても人の集まりだから、それを理解したうえでお互いに何ができるか、腹を割って話し合えればよいのではないか。

- モンスターペアレントの発言よりも、大多数のサイレントマジョリティの方が大事なのだが、子ども会などでも、参加して一生懸命やろうと思っても、後ろ指を指す人が出てくることから、目立たないようにしようという人が増えてしまっているように思う。

⑤生涯学習について

- 希望の家は宿泊施設なのに、泊まることに対して使いづらい。また、はだか祭りの時、以前はお風呂を使わせてもらっていたが、今は使えなくなった。まわしを締めてくれる人もいなくなり、準備ができなくなった。
- 施設管理者の事業が中心となって施設予約が事前に押さえられてしまい、市民が何かやりたくて問い合わせても受け付けてもらえない。使用側の意見を収集しようという姿勢がない。もっと充実させればよいと思う。
- 生涯学習センターなどは、時間延長をし、名鉄の終電まで使えるようにしてはどうか。
- 情報発信が個々の媒体でバラバラになっていて、連携がとれていない。ソーシャルメディアを組み合わせることで、効果が上がるのではないか。もっと体系的な情報発信の仕組みをつくるべきである。
- 生涯学習の窓口を広く構えられることが最も大事である。そこから興味がいろいろな分野に広がり、ひいては岩倉への愛着等に繋がっていくので、そういう窓口を用意することが大切である。

⑥その他について

- 岩倉には元々小学校が5つ、中学校が2つあり、その繋がりがある程度しっかりできている。それぞれの校区に特長があることから、学校を中心としたコミュニティがうまくできるとよい。
- 岩倉東小学校は国際色豊かな一方で、それを支えている日本人の負担が思いの外大きいと思われる。また、校区内の団地は高齢社会になっていて、数年先の岩倉市を暗示している場所でもある。モデル地区をつくって試し、効果があれば全市に広げればよいのではないか。デマンド型乗合タクシーなども、試した結果がはっきりしないまま継続されているのではないか。
- 五条川コミュニティは20年くらい前から始まっている。良いものであれば広げればよいと思うが、広まっていない。これまでの経過を精査しなくてはいけない。当初の目的を再確認し、リニューアルするなど方法はあるはずである。